

平成20年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ(注意報第1号) 縞葉枯病(注意報第1号) ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	多 並 少 並 並 並 並	多 やや多 やや少 並 並 並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	やや少 並 やや多	やや少 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	やや多 (前年比)	やや多 (前年比)
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 並 やや少 並	並 並 並 やや少 並
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	やや少 やや多	やや少 やや多
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 やや多	並 やや多
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや少 やや多 並	やや少 やや多 並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 やや少 並 多 やや少 やや多 並	やや少 やや少 並 多 やや少 やや多 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.6%、発病株率0.0%)。

- イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が長崎市で6月2、11日、口之津町で6月9日、佐世保市、平戸市、大瀬戸町、有川町で6月11日に認められた（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成20年6月16日付け、**病害虫発生予察注意報第1号**による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ やや少
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月中下旬のイネ科雑草地（3地点）から採集したツマグロヨコバイ（第1世代）についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%（0.0%）であった。
- イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.0頭（0.1頭）、発生圃場率は4.9%（43.6%）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.4頭（1.8頭）であった。萎縮病の発生は認めなかった（発生を認めない）。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ 並
トビイロウンカ 並

(2) 予報の根拠

- ア セジロウンカは、5月29日にネットトラップ（諫早市）での捕獲を初確認した。トビイロウンカは、6月13日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。
- イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.2頭）で、成虫が主体であった。発生圃場率は22.0%（38.5%）であった。トビイロウンカの発生は認めなかった（発生を認めない）。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.0頭（0.5頭）で、若齢幼虫主体であった。トビイロウンカの発生は認めなかった（発生を認めない）。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 6月13日にフェロモントラップ（諫早市）で誘殺を初確認した。
- イ 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、早期水稲において食害株及び幼虫の発生

は認めなかった（発生を認めない）。成虫の10㎡当たり虫数は0.0頭（0.0頭）、発生圃場率は2.4%であった。

ウ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、早期水稲、無防除）調査の結果、食害株及び成・幼虫の発生は認めなかった（食害株率0.3%、10㎡当たり成虫数0.0頭）。

（3）防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

（1）予報内容

発生程度 やや少

（2）予報の根拠

6月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発病株率2.2%（17.4%）、発生圃場率27.3%（63.7%）であった。

2. 炭疽病（*G.cingulata*）

（1）予報内容

発生程度 並

（2）予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発生を認めなかった（発生圃場率1.1%、発病株率0.1%）。

イ 診断依頼（6月13日現在）において、イチゴ炭疽病（*G.cingulata*）菌を分離し、5件発生を確認している（過去同時期の確認件数はH19 1件、H18 3件である）。

（3）防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 高設育苗や全面マルチを行い、降雨等による地面からの病原菌の跳ね上がりを防止する。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後に重点的に行う。

3. ハダニ類

（1）予報内容

発生程度 やや多

（2）予報の根拠

6月上旬の巡回調査（33筆）の結果、寄生株率は3.1%（1.4%）、発生圃場率は30.3%（15.6%）であった。

（3）防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量をていねいに散布する。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

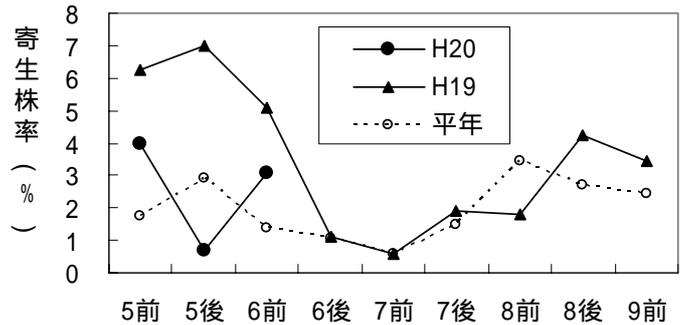
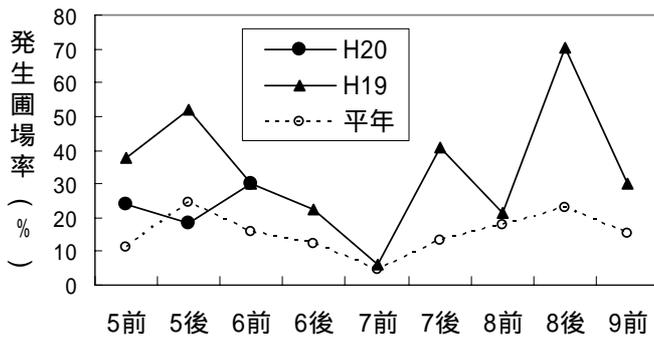


図 いちご育苗床 ハダニ類の発生推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多(前年比)

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は45.1頭(前年23.2頭)、発生圃場率は88.9%であった(前年77.8%)。

(3) 防除上注意すべき事項

密度が高くなると薬剤防除が困難になるので、発生に注意し、早期防除に努める。

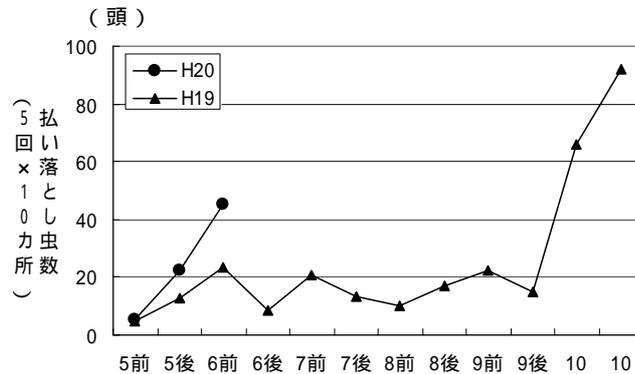


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は5.1%(10.4%)だった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.7%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は7.4%(12.9%)、発生圃場率は61.5%(51.3%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。

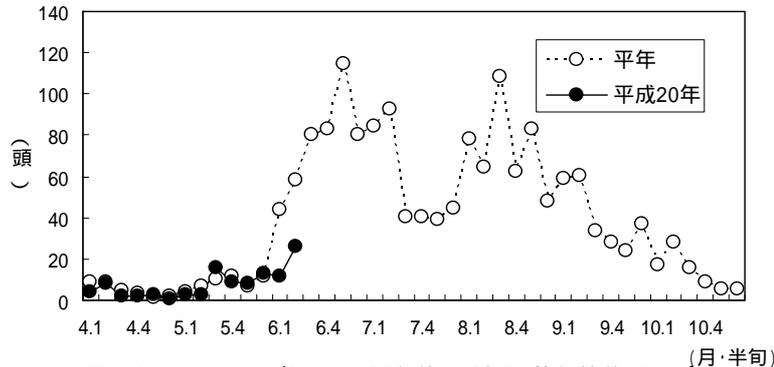


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早:黄色粘着トラップ)
平年は平成15~19年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

イ ただし、発生が多い圃では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

アメダス地点	長崎	佐世保	大村	島原	松浦	大瀬戸	口之津
第3世代	7 / 1	7 / 2	7 / 4	7 / 1	7 / 11	7 / 7	6 / 30
第4世代	7 / 19	7 / 20	7 / 22	7 / 19	7 / 30	7 / 27	7 / 18

注1: 使用する気温データには各地域のアメダスデータを利用した。

注2: 平成20年6月12日現在で予測し、6月13日以降のデータは過去3年分の平均値を利用した。

注3: 各地域のアメダスの海面からの高さは以下の通りである。山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

アメダス地点海面上の高さ

長崎 27m、佐世保 4m、大村 3m、島原 9m、松浦 5m、大瀬戸 43m、口之津 10m

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の有機リン剤による防除適期は、下表のとおりである。防除適期を過ぎて

いる地域では、早急に薬剤散布を行う。

地区名	長崎	西諫早	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
防除適期 (有機リン)	6/16	6/20	6/19	6/17	6/16	6/18	6/17	6/22	6/19

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率0.3%(1.9%)、発生圃場率は20.0%(45.7%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率0.8%(0.0%)、発生圃場率は40.0%(0.0%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

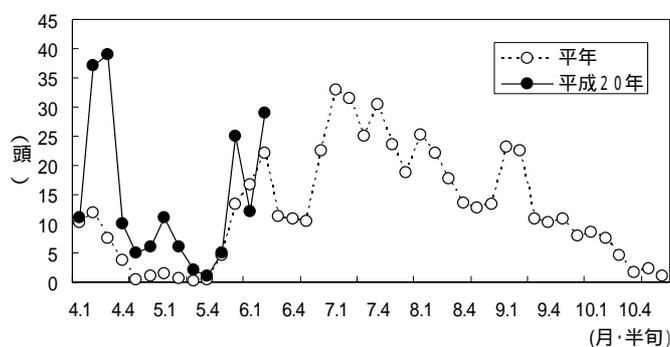


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
平年値は平成15～19年の平均

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.0%(1.0%)、発生圃場率は33.3%(29.7%)、果実での発生は認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率6.1%)。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している。

(3) 防除上注意すべき事項

合成ピレスロイド剤の散布後、ハダニ類やカイガラムシ類の発生が増加する場合があるので注意する。

ぶどう

1. ペと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率3.1%)。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は3.2%(0.3%)、発生圃場率は33.5%(13.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感染した枝葉は除去して園外へ持ち出し処分する。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害果房率0.6%(0.0%)、発生圃場率16.7%(2.1%)であった。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年よりやや少なく推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年より少なく推移している。

イ 1~2月に実施した越冬量調査の結果、越冬量は平年より少なかった。

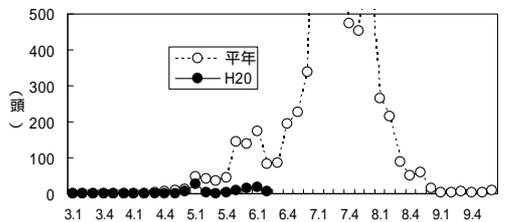


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネロール) (月・半旬)
平年は平成15~19年の平均

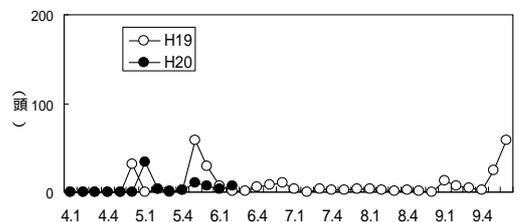


図 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(西彼:黄色コガネロール)

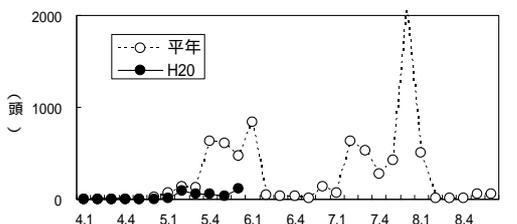


図 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況(有家:黄色コガネロール) (月・半旬)
平年は平成17~19年の平均

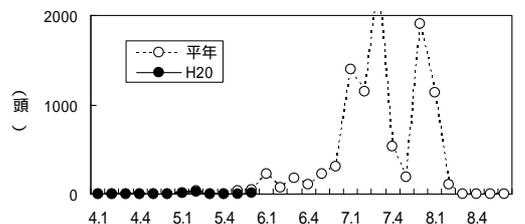


図 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況(多良見:黄色コガネロール) (月・半旬)
平年は平成17~19年の平均

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率3.0%、発生圃場率33.0%)。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は2.5頭(14.1頭)、発生圃場率は50.0%(81.3%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.1枚、発生圃場率8.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年並であった(図)。

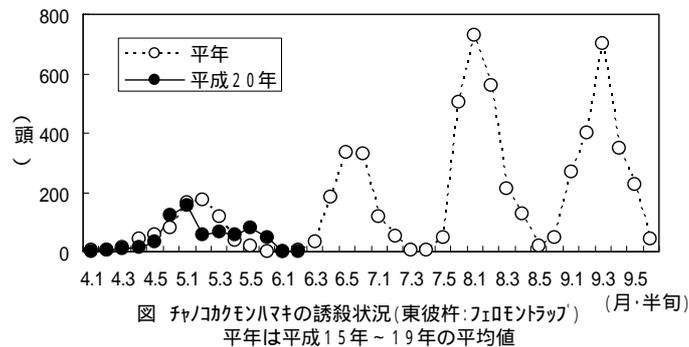


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ) (月・半旬)
平年は平成15年~19年の平均値

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 多

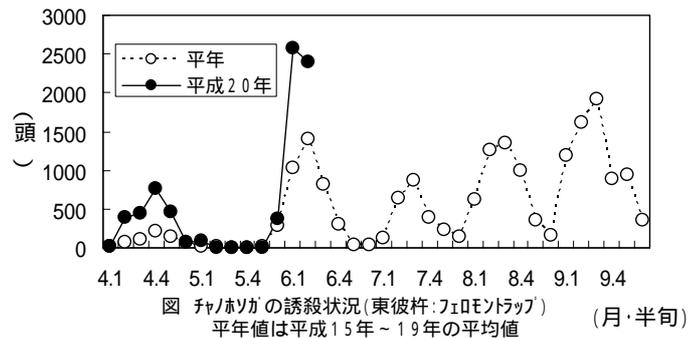
(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.1枚)、発生圃場率は10.0%(5.2%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年より多かった(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

合成ピレスロイド剤の散布後、カンザワハダニの発生が増加する場合がありますので注意する。



5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(寄生葉率1.6%、発生圃場率17.4%)。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は3.4頭(1.3頭)、発生圃場率は70.0%(32.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫は葉裏に多いので、葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は1.1%(7.8%)、発生圃場率は30.0%(34.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日(第2世代)

地区名	東彼杵 太の原	五島 上大津
平成20年	7 / 25	7 / 16

注1: ふ化盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2: 使用する気温データには、東彼杵茶業支場の気温データとアメダスデータを利用した。

注3: 同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

【参考】

気象

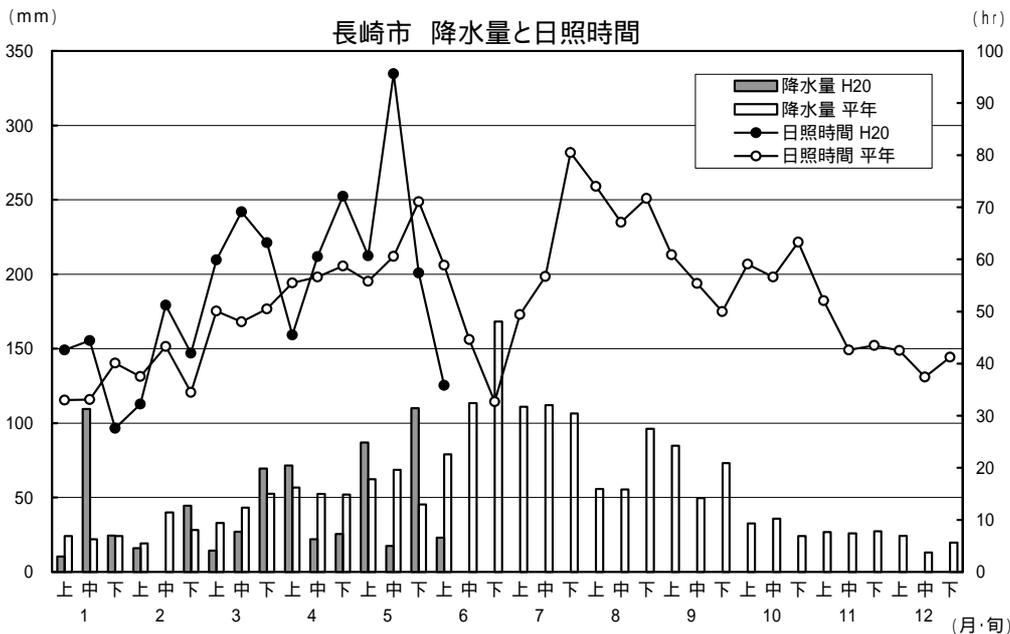
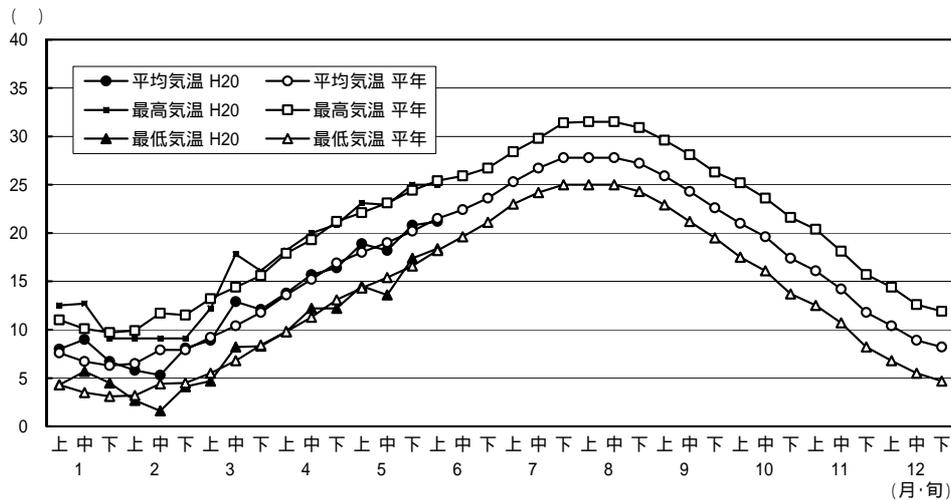
(平成20年6月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	50	20
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域

平成20年の気象経過(長崎海洋気象台)



「農薬使用基準の遵守について」
 農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準(適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数)及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027